

田植後4週間頃までに、「中干し」を実施しましょう。

1 水管理

①コシヒカリの「中干し」

- ・溝掘りをまだ実施していない圃場では、早急に行い、中干しを始める。
- ・完了の目安は、くるぶしが沈む程度。

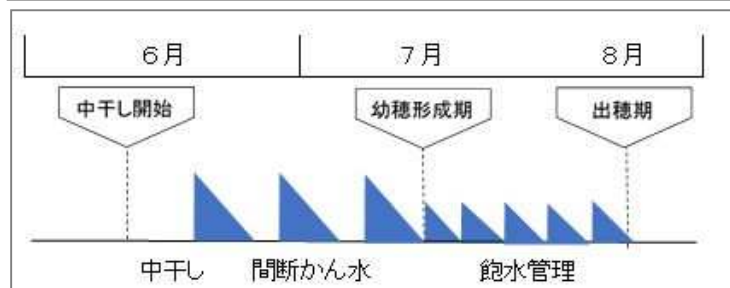
②「中干し」後は、「間断かん水」

- ・「3日湛水、4日落水(土壌条件や天候に応じて調節)」を繰り返し、幼穂形成期までに足跡の深さが3cm程度になるよう固める。
- ・葉色の急激な低下を防ぐため、圃場が乾き過ぎないように注意する。

③幼穂形成期以降、出穂期までの「飽水管理」

- ・足跡に水が残る程度とし、圃場が乾き過ぎないようにする。
- ・「3日湛水、2日落水(土壌条件や天候に応じて調節)」を繰り返す。

中干し以降の水管理のイメージ(コシヒカリ)



「飽水管理」のポイント
足跡に水が残る程度の
湿潤状態を維持する。

2 斑点米カメムシ対策

- ・水田周辺の畦畔だけでなく、雑草地も合わせて草刈りを実施する。
- ・大麦あと圃場は、大豆、えだまめ、野菜、緑肥などを積極的に作付けする。
- ・作付け予定がない場合は、カメムシ類の繁殖を防ぐため、速やかに雑草を処理し、その後も雑草が繁茂しないように管理する。

3 「てんたかく」の追肥

- ・倒伏や品質、食味の低下を招くので、**原則、追肥しない。**
- ・ただし、幼穂長1～2mm(6月下旬頃)の時期に、葉色が4.0を下回る場合、収量低下を防ぐため、遅れずに追肥する。

追肥時期	判断基準	肥料名	施肥量
6月下旬	葉色 4.0 以下	追肥 3 号(15-3-15) または 流し込み追肥化成らくらく (15-12-12)	7kg/10a (N:1.05kg)

【お問い合わせ先】

JA いみず野営農指導課 TEL:52-6805 高岡農林振興センター射水班 TEL:26-8478

JA いみず野ホームページ <http://www.ja-imizuno.or.jp>

熱中症に気を付けて、作業を行いましょう!!